

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	中京学院大学
設置者名	学校法人中京学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経営学部	経営学科	夜・通信			14	14	13	
看護学部	看護学科	夜・通信			23	23	13	
(備考) 【経営学部】科目名(単位数) 経営者ワークショップ(2)、アントレプレナーシップ入門(2)、個人資産の管理(2)、地域活性化とツーリズム(2)、マーケティング論(2)、イベントクリエーション(2)、就業力ゼミⅠ(2) 【看護学部】科目名(単位数) 急性期看護学Ⅱ(1)、急性期看護学実習(3)、慢性期看護学Ⅱ(1)、慢性期看護学実習(3)、精神看護学実習(2)、地域・在宅看護学実習(3)、母性看護援助論Ⅰ(2)、母性看護援助論Ⅱ(1)、老年看護学実習(3)、公衆衛生活動展開論Ⅱ(1)、公衆衛生看護学実習Ⅱ(3)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページの以下ページ内に公表 「授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報」の項に公表 大学案内 → 大学について → 情報公開 → 教育情報の公表 → 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報 → 修学支援に関する実務家教員担当科目一覧 https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/index.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中京学院大学
設置者名	学校法人中京学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページの以下のページ内の「法人理事の一覧」の項に公表
 大学案内 → 情報公開 → 教育情報の公表 → 法人理事の一覧
<https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長	R7.5.27～ R11.6 評議員会終結時	財務
非常勤	会社役員	R7.5.27～ R11.6 評議員会終結時	コンプライアンス
非常勤	会社役員	R7.5.27～ R11.6 評議員会終結時	キャリア
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中京学院大学
設置者名	学校法人中京学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書(以下シラバス)については、その記載内容および執筆要領についてリファームエデュケーションセンターにて作成し、各学部教授会にて審議・決定している。 完成したシラバスは、学生の履修登録が始まるまでに公表し、同時に大学ホームページにおいても公表している。 【経営学部】 令和8年1月21日第11回教授会にて、教務委員会よりシラバス執筆において下記の5項目を注意して作成するよう依頼を行い、全教員が共通認識をもってシラバスを作成している。 作成時の注意 1. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 2. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 3. 授業における学修の到達目標及び成績評価の方法・基準 4. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 5. 当該授業科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号(ナンバリング等) チェック体制について 各担当教員は、執筆要領に基づいてシラバスを作成し、教務委員会が第三者チェックを行い、記載内容について精査する。その結果に基づいて担当教員に修正依頼を行う(2月)。修正結果を確認し、授業計画書の完成となる。 シラバスの公表は、履修登録開始に合わせて、当該年度分を公表する。 【看護学部】 令和8年1月19日第9回教授会にて、教務委員会よりシラバス執筆において下記の5項目を注意して作成するよう依頼を行い、全教員が共通認識をもってシラバスを作成している。 作成時の注意 1. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 2. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 3. 授業における学修の到達目標及び成績評価の方法・基準 4. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 5. 当該授業科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号(ナンバリング等)

チェック体制について 教務委員会内にてチェック(1回目) → 不備があれば担当へ返却後再提出 → 教務委員会へ提出 → 教務委員会内にてチェック(2回目) → 不備があれば担当へ返却後再提出 → 完成	
授業計画書の公表方法	大学ホームページの以下ページ内に公表 「授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報」の項に公表 大学案内 → 大学について → 情報公開 → 教育情報の公表 → 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報 → シラバス(経営学部、看護学部、短期大学部 保育科) https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/index.html シラバス検索ページ 大学HPと別ページのため https://cplan.chukyogakuin-u.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 【経営学部】 試験方法 試験方法は、筆記試験のほか、レポート試験、口述試験、実技試験などによる。 (1) 成績評価 授業科目の成績評価は、S(90点～100点)、A(80点～89点)、B(70点～79点)、C(60点～69点)、D(30点～59点)、F(0点～29点)の6段階に分けて評価している。 ①成績は上記「成績評価およびグレード・ポイント(GP)」表により評価し、60点以上(C評価以上)にて単位を認める。 ②成績評価はシラバスの評価基準を原則としている。 ③成績評価の結果、合格と判定された科目は、所定の単位が修得できる。 ④成績評価の結果が不合格<D>と判定された科目は、再試験を実施することがある。再試験の成績評価は<C>または<F>となる。 ⑤成績評価の結果が不合格<F>と判定された科目は、次学期以降に再度履修することができる。 【看護学部】 (1) 講義・演習の成績は、筆記試験、レポート、実技試験などを総合して評価方法を作成している。 (2) 実習の成績は、実習内容・態度及び実習記録等を総合して評価している。 (3) 定期試験(追試験・再試験含む)の結果はS、A、B、C、DおよびFの6段階で表示し、S、A、BおよびC以上を合格とし、再試験評価のD及び定期試験(追試験・再試験含む)Fは不合格としている。	

上記の内容は大学ホームページの「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報」にて公表し、学生には「学生ハンドブック」として配布している。 また、学習意欲の把握については、学生に対するアンケートにて事前・事後学修時間を調査するなどして、把握に努めている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA等の客観的な指標の設定及び公表】 ・グレードポイントアベレージ（GPA）算出方法は、それぞれの評価のGPに単位数を乗じた値の和を、総履修単位数で除することで算出する。 ・計算式	
$\frac{\text{「S」の修得単位数} \times 4.0 + \text{「A」の修得単位数} \times 3.0 + \text{「B」の修得単位数} \times 2.0 + \text{「C」の修得単位数} \times 1.0}{\text{総履修登録単位数（「D」・「F」の単位数を含む）}}$	
GPAは小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までの数値とする。 ・2026年度学生ハンドブック 21 頁【経営学部】79 頁【看護学部】にて学生へ公表している 【成績の分布状況の把握及び適切な実施について】 ・2025年度の各学科、学年のGPA数値分状況を大学のホームページにて公表している	
客観的な指標の算出方法の公表方法	大学ホームページの以下ページ内に公表 「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報」の項に公表 大学案内 → 大学について → 情報公開 → 教育情報の公表 → 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報 → 学習の成果に係る評価並びに GPA の数値分布状況 https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/index.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ○卒業認定方針の策定・公表 中京学院大学では学部ごとに「卒業認定・学位授与の方針」を次のように定め、日々の教育活動を行い、同方針等については大学ホームページにて公表している。 【経営学部】 ○卒業認定・学位授与の方針（DP） 経営学科(以下、「本学科」という)では、本学の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、「変化することを恐れず、他者と協働しながら創意工	

夫して、新たな価値を創造できる人材」を育成するために、次のような能力・資質を備えた人物に学位を授与します。

- DP1 コミュニケーション力（規律性・傾聴力・表現力・フレンドシップ力）
ルールやマナーを守り、自己の考えを正確に伝えながら他者の思いや考えを受け止め、価値観の多様性を理解して協働することができる
- DP2 問題発見力・課題解決力（リフレクション力・計画性・創造力）
常に広い視野を持ち、様々な情報の中から必要な情報を取捨選択しながら、柔軟な発想で問題を発見して解決へと導くことができる
- DP3 実践力（挑戦力・貫徹力）
自身の心身の状態を適切に理解するとともに健康を管理し、それを土台として常に物事を前向きに考え、責任を持って諦めずに最後まで行動することができる
- DP4 地域社会に貢献する力（主体性・まごころ力）
向上心や責任感を持ちながら何事にも取り組むことで自己理解を図り、人間の生きる意味の尊さや奉仕の精神を育み、他者や地域社会の為に主体的に行動することができる
- DP5 経営基礎力
企業や組織の活動に関する基礎的な経営学の知識を身につけ、状況に応じて適切な判断や改善策を考えることができる
- DP6 ビジネス価値創造力
スポーツマネジメント、エンターテインメントビジネス、起業家育成などの専門プログラムを通じて、顧客や地域のニーズを的確に捉え、収益性のあるビジネスモデルを構想・実践し、新たな価値を創造することで持続的に成長する社会の構築に貢献できる
- DP7 情報活用力
データの収集・分析手法や各種情報ツールの活用方法を理解し、それらの知識・技術を実際のプロジェクトに適用することで、現実社会やビジネスの課題解決に活かすことができる

○卒業要件

経営学部経営学科に4年以上在籍し、卒業に必要な単位124単位以上を修得した場合に卒業を認定している。

○卒業判定の手順

経営学部では、3月上旬もしくは9月上旬に教授会(卒業判定会議)を行い、教授会の意見を聴いて学長が決定している。

【看護学部】

○卒業認定・学位授与の方針（DP）

看護学科では、125単位（保健師課程は135単位）以上の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、豊かで幅広い教養を基盤とする知識および看護学の専門知識・技術・態度を修得し、国際社会や地域社会において看護専門職として貢献できる人材を育成するために、下記の能力・資質を修得し、それらを総合的に活用できる人材に学位を授与します。

- DP1 問題発見力・課題解決力（リフレクション力・計画性・創造力）
常に広い視野を持ち、様々な情報の中から必要な情報を取捨選択しながら、柔

軟な発想で問題を発見して解決へと導くことができる。 DP2 実践力（挑戦力・貫徹力） 健康な体を維持しながら、それを土台として常に物事を前向きに考え、責任を持って諦めずに最後まで行動することができる。 DP3 コミュニケーション力（規律性・傾聴力・表現力・フレンドシップ力） ルールやマナーを守り、自己の考えを正確に伝えながら他者の思いや考えを受け止め、価値観の多様性を理解して協働することができる。 DP4 地域社会に貢献する力（主体性・まごころ力） 向上心や責任感を持ちながら何事にも取り組むことで自己理解を図り、人間の生きる意味の尊さや奉仕の精神を育み、他者や地域社会の為に主体的に行動することができる。 DP5 専門的知識・技術力 DP5-1 教養と真剣味を基盤として、人間の尊厳と権利を擁護し援助的関係を形成できる基礎的能力を身につけることができる DP5-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、人々の健康と生活を自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解する能力を身につけることができる DP5-3 人々の多様な価値観を認識し、看護専門職としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につけることができる DP5-4 人々の健康や障害の状態に応じた看護を、科学的な根拠に基づいて実践できる基礎的能力を身につけることができる DP5-5 保健・医療・福祉における看護専門職の役割を理解し、チーム医療を提供および調整できるための基礎的能力を身につけることができる DP5-6 生涯学習の姿勢と研究的態度を身につけ、看護分野及び地域社会に貢献できる基礎的能力を身につけることができる	卒業認定・学位授与の方針：大学ホームページの以下ページ内に公表 「3つのポリシー」の項に公表 大学案内 → 大学について → 大学概要 → 3つのポリシー URL:https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/aim/index.html 卒業要件：大学ホームページの以下ページ内に公表 「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報」の項に公表 大学案内 → 大学について → 情報公開 → 教育情報の公表 → 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報 → 卒業要件・所要単位を取得することにより取得可能な免許および資格 https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/index.html
卒業の認定に関する 方針の公表方法	

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	中京学院大学
設置者名	学校法人中京学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページの「大学の財務・事業計画に関する情報」の項の2025年度決算補足資料内に公表 大学案内→情報公開→教育情報の公表→大学の財務・事業計画に関する情報 https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページの「大学の財務・事業計画に関する情報」の項の2025年度決算補足資料内に公表 大学案内→情報公開→教育情報の公表→大学の財務・事業計画に関する情報 https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info
財産目録	大学ホームページの「大学の財務・事業計画に関する情報」の項の2025年度決算補足資料内に公表 大学案内→情報公開→教育情報の公表→大学の財務・事業計画に関する情報 https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info
事業報告書	大学ホームページの「大学の財務・事業計画に関する情報」の項の2025年度決算補足資料内に公表 大学案内→情報公開→教育情報の公表→大学の財務・事業計画に関する情報 https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info
監事による監査報告（書）	大学ホームページの「大学の財務・事業計画に関する情報」の項の2025年度決算補足資料内に公表 大学案内→情報公開→教育情報の公表→大学の財務・事業計画に関する情報 https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度： ）
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度： ）
公表方法：	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：大学ホームページの「自己評価報告書」において公表
大学案内→情報公開→大学機関別認証評価→自己点検評価報告書（令和3年度以降）
<https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/evaluation/>

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページに公表） 大学案内 → 大学概要 → 教育研究上の目的 URL: https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/aim/index.html
（概要） 経営学部経営学科では、経営学に関する専門的知識及び実践的能力を修得するとともに、これらを総合的に活用し、地域社会や国際社会における組織活動に寄与することのできる人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページに公表） 大学案内 → 大学概要 → 3つのポリシー URL: https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/policy/
（概要） 経営学科(以下、「本学科」という)では、本学の課程を修め、124 単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、「変化することを恐れず、他者と協働しながら創意工夫して、新たな価値を創造できる人財」を育成するために、次のような能力・資質を備えた人物に学位を授与します。
DP1 コミュニケーション力（規律性・傾聴力・表現力・フレンドシップ力） ルールやマナーを守り、自己の考えを正確に伝えながら他者の思いや考えを受け止め、価値観の多様性を理解して協働することができる
DP2 問題発見力・課題解決力（リフレクション力・計画性・創造力） 常に広い視野を持ち、様々な情報の中から必要な情報を取捨選択しながら、柔軟な発想で問題を発見して解決へと導くことができる
DP3 実践力（挑戦力・貫徹力） 自身の心身の状態を適切に理解するとともに健康を管理し、それを土台として常に物事を前向きに考え、責任を持って諦めずに最後まで行動することができる
DP4 地域社会に貢献する力（主体性・まごころ力） 向上心や責任感を持ちながら何事にも取り組むことで自己理解を図り、人間の生きる意味の尊さや奉仕の精神を育み、他者や地域社会の為に主体的に行動することができる
DP5 経営基礎力 企業や組織の活動に関する基礎的な経営学の知識を身につけ、状況に応じて適切な判断や改善策を考えることができる
DP6 ビジネス価値創造力 スポーツマネジメント、エンターテインメントビジネス、起業家育成などの専門プログラムを通じて、顧客や地域のニーズを的確に捉え、収益性のあるビジネスモデルを構想・実践し、新たな価値を創造することで持続的に成長する社会の構築に貢献できる
DP7 情報活用力 データの収集・分析手法や各種情報ツールの活用方法を理解し、それらの知識・技術を実際のプロジェクトに適用することで、現実社会やビジネスの課題解決に活かすことができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：大学ホームページに公表）

大学案内 → 大学概要 → 3つのポリシー

URL: <https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/policy/>

（概要）

中京学院大学では、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」のもと、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に則って入学してきた学生が、卒業までにディプロマ・ポリシーで定める資質・能力を育成できるよう、以下の教育方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

1) 教育内容

CP1. コミュニケーション力（規律性・傾聴力・表現力・フレンドシップ力）の育成

グループワークや探究型学修（Problem-/Project-Based Learning）を通じて、傾聴と表現を行うことで、相互の多様な価値観を理解し、自己の考えを的確に表現しながら他者を尊重し協働できる力を養います。

CP2. 問題発見力・課題解決力（リフレクション力・計画性・創造力）の育成

ゼミナールや探究型学修を中心に、幅広い視野から課題を見出し、情報を取捨選択・分析し、理論と実践を結びつけながら柔軟に解決へと導く力を養います。

CP3. 実践力（挑戦力・貫徹力）の育成

ボランティアなど多様な実践機会を通じて、主体性と挑戦心を育み、責任を持って物事を最後までやり遂げる力を養います。

CP4. 地域社会に貢献する力（主体性・まごころ力）の育成

プロジェクト学修を通じて、奉仕の精神と人間の尊厳を理解し、専攻分野の知識と技能を活かして地域創生や国際社会に貢献できる姿勢を養います。

CP5. 経営基礎力の育成

経営学・商学・会計学・経済学分野および関連科目を通じて、人・モノ・カネ・情報などの経営資源に関する知識を学び、適切に活用できる力を養います。

CP6. ビジネス価値創造力の育成

スポーツマネジメントプログラム、エンターテインメントビジネスプログラム、起業家育成プログラムなどの専門プログラムを通じて、ビジネスとして「お金を稼ぐ」プロセスを体系的に理解するとともに、実社会で通用するビジネス実践力を養います。

CP7. 情報活用力の育成

データサイエンス分野の科目や、情報ツールを活用した学びを通じて、データの収集・整理・分析能力と各種情報ツールの活用方法を身につけ、ビジネスや地域社会の課題解決に活用する力を養います。

2) 教育方法

(1) 「自らの目を見て、考えて、決めて、やってみる」という、経験に基づいて知識を構成する学びを実践します。

したがって、多くの科目はプロジェクト型授業（Project Based Learning）として展開されます。

(2) 学ぶフィールドは、学内から学外へと段階的に広がるようにデザインされています。

3) 評価

本学科では、学位授与の方針に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況を評価するために、各学年において主要科目における到達度の把握と「学修ベンチマーク」を用いて評価します。

各学期に科目ごとの到達目標の達成度を確認する試験を実施し、不合格者には再試験を課し合格を求めます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：公表方法：大学ホームページに公表） 大学案内 → 大学概要 → 3つのポリシー URL: https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/policy/
（概要） 本学科はDP、CPに定める教育を受ける条件として、本学科の学修に対する目的や意欲、高等学校までの学習および経験を通じての基礎的な知識、身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を身に付けて入学してくるよう、下記のことを求めます。 このような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。 1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 2. 様々な課題に挑戦し、知識や情報をもとにして、論理的に考え、その結果を表現することができる。 3. 人間への尊厳や思いやりの心を持ち、コミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。 4. 経営学部経営学科で学んだ知識や経験を地域社会に活かしたいという目的意識と意欲を兼ね備えている。 5. スポーツ等様々な活動をととして、挑戦力、貫徹力、リーダーシップ力を発揮することができる。 6. 自分を積極的に成長させ、他者とも協力して新しい価値を創りだそうとする意欲を持っている。

学部等名 看護学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページに公表） 大学案内 → 大学概要 → 教育研究上の目的 URL: https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/aim/index.html
（概要） 看護学部看護学科では、看護学に関する専門的知識及び実践的技術を修得するとともに、これらを総合的に活用し、地域社会や国際社会における保健・医療・福祉の発展に寄与することのできる人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページに公表） 大学案内 → 大学概要 → 3つのポリシー URL: https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/policy/
（概要） 看護学科では、125単位（保健師課程は135単位）以上の単位取得と必修等の条件を満たしたうえで、豊かで幅広い教養を基盤とする知識および看護学の専門知識・技術・態度を修得し、国際社会や地域社会において看護専門職として貢献できる人材を育成するために、下記の能力・資質を修得し、それらを総合的に活用できる人材に学位を授与します。 DP1 問題発見力・課題解決力（リフレクシオン力・計画性・創造力） 常に広い視野を持ち、様々な情報の中から必要な情報を取捨選択しながら、柔軟な発想で問題を発見して解決へと導くことができる。 DP2 実践力（挑戦力・貫徹力） 健康な体を維持しながら、それを土台として常に物事を前向きに考え、責任を持って諦めずに最後まで行動することができる。 DP3 コミュニケーション力（規律性・傾聴力・表現力・フレンドシップ力） ルールやマナーを守り、自己の考えを正確に伝えながら他者の思いや考えを受け止め、価値観の多様性を理解して協働することができる。

DP4 地域社会に貢献する力（主体性・まごころ力）

向上心や責任感を持ちながら何事にも取り組むことで自己理解を図り、人間の生きる意味の尊さや奉仕の精神を育み、他者や地域社会の為に主体的に行動することができる。

DP5 専門的知識・技術力

DP5-1 教養と真剣味を基盤として、人間の尊厳と権利を擁護し援助的関係を形成できる基礎的能力を身につけることができる

DP5-2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、人々の健康と生活を自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解する能力を身につけることができる

DP5-3 人々の多様な価値観を認識し、看護専門職としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につけることができる

DP5-4 人々の健康や障害の状態に応じた看護を、科学的な根拠に基づいて実践できる基礎的能力を身につけることができる

DP5-5 保健・医療・福祉における看護専門職の役割を理解し、チーム医療を提供および調整できるための基礎的能力を身につけることができる

DP5-6 生涯学習の姿勢と研究的態度を身につけ、看護分野及び地域社会に貢献できる基礎的能力を身につけることができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：大学ホームページに公表）

大学案内 → 大学概要 → 3つのポリシー

URL: <https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/policy/>

（概要）

本学科では、大学の卒業認定・学位授与方針の目標を達成するために、基本教育科目、専門基礎科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を段階的に組み合わせた授業を展開します。カリキュラムの体系を示すためにカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを作成し、科目間の関連や構造を分かり易く明示します。

1) 教育内容

CP1 共通コア教養科目として学部の枠を超え、中京学院大学生としてふさわしい姿勢と能力を育むことを目標とし「基礎ゼミナール」「地域貢献」「ホスピタリティ」「ボランティア論」等を中心に、真剣味サイクルに示された人財育成の過程に基づいて、「4つの力」の内、特にコミュニケーション力を重視しつつ、それぞれの土台となる力の定着をはかります。

CP2 4年間を通した学修の基礎となる基本教育科目においては、必修科目「人間哲学と道徳倫理」「人間関係とコミュニケーション」「現代社会と家族関係」等を中心に、人間の理解、社会の理解、言語と情報の3領域の履修を通して、幅広い教養基盤に支えられた豊かな人間性を涵養するための基本的視点・考え方を学びます。

CP3 専門基礎科目においては、1年次から2年次にかけて「形態機能学」「病理病態学」「保健医療法規」等を中心に、人間と生命、健康と疾病、保健と福祉の3領域の履修を通して、看護分野の理解を助け、関連する分野を幅広い視野に立って取り組むことのできる力の獲得をはかります。

CP4 専門教育科目においては、看護に関する基礎的な知識と基本的な技術・態度および実践できる能力を身に付けるために、1年次から4年次にかけて領域別に体系性・順次性を考えて科目を配置します。1年次2年次に基礎看護学の講義、演習、実習を配置し、看護の基礎的知識・技術・態度を修得します。3年次には領域別実習において、大学で学修した知識を現場で適用し実践できる力を身につけます。4年次の地域・在宅看護学実習では、施設ではなく在宅における看護ニーズ、実践について学びます。

CP5 4年次の卒業研究および看護学総合実習を必修とし、専門科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。

CP6 看護師課程の受験資格の取得に必要な科目は1年次から系統的に配置し、保健師課程については、2年次前期に履修登録された者が2年次後期以降に必要な科目を履修します。

2) 教育方法

- (1) 主体的・協働的に学ぶ姿勢と思考力・判断力・表現力を高めるために、専門科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた方法を実施します。
- (2) 人体の構造を理解する力を高めるために解剖見学を行います。
- (3) 国家資格に必要な専門的知識の修得度を確認するために、外部テストの導入および学科教員によるゼミを開設し、1年次から段階を追ったプログラムで指導します。
- (4) 臨地実習は問題解決学習方法を用いて、指導教員および臨地実習指導者から現場で助言を受けながら実施します。小グループで、他者との意見交換を取り入れた学習方法により思考を広げます。課題の発見と解決に向けた実践力を高めるために、実習を1年次から4年次まで段階的・発展的に繰り返し実施します。
- (5) 学期末に必修科目の達成度について、アドバイザー教員との面談を通し学習の振り返りを行います。

3) 評価

- (1) 各学期に科目ごとの到達目標の達成度を確認する試験を実施し、不合格者には再試験を課し合格を求めます。
- (2) 学期・年次ごとに、必修科目の修得レベルを中心に学習の成果を評価します。
- (3) 4年間の学修成果は、総合実習および卒業研究の到達度を中心に総括的に評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：公表方法：大学ホームページに公表）

大学案内 → 大学概要 → 3つのポリシー

URL: <https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/about/policy/>

（概要）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成の方針に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・能力・意欲を備えた人を求めます。

1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
2. 看護職者への明確な目的意識をもち、看護を通して地域社会に貢献しようという意欲をもっている。
3. 高等学校までの履修内容のうち、「国語」と「英語」を通じて、話す・聞く・書く・読むというコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
4. 高等学校までの履修内容のうち、科学的思考力の基礎として理系科目（「数学」または「生物」）を身につけている。
5. 身近な社会の問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え説明することができる。
6. 自らの健康状態や生活習慣に対する管理ができています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページの以下のページ内の「教育研究上の基本組織に関する情報」の項に公表

<https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
経営学部	－	9 人	3 人	1 人	1 人	0 人	14 人
看護学部	－	14 人	4 人	1 人	8 人	3 人	30 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		41 人					41 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページの以下のページ内の「教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する情報」の項に公表 URL: https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経営学部	150 人	177 人	118.0%	610 人	365 人	59.8%	5 人	2 人
看護学部	80 人	35 人	43.8%	320 人	168 人	52.5%	—人	—人
合計	230 人	212 人	92.2%	930 人	533 人	57.3%	5 人	2 人
（備考）令和 8 年度 5 月 1 日現在								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
経営学部	76 人 (100%)	0 人 (0%)	74 人 (97.4%)	2 人 (2.6%)
看護学部	56 人 (100%)	0 人 (0%)	53 人 (94.6%)	3 人 (5.4%)
合計	132 人 (100%)	0 人 (0%)	127 人 (96.2%)	5 人 (3.8%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）令和 8 年度 5 月 1 日現在				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
経営学部	89 人 (100%)	69 人 (77.5%)	3 人 (3.4%)	17 人 (19.1%)	0 人 (0%)
看護学部	80 人 (100%)	52 人 (65.0%)	12 人 (15.0%)	16 人 (20.0%)	0 人 (0%)
合計	169 人 (100%)	121 人 (71.6%)	15 人 (8.9%)	33 人 (19.5%)	0 人 (0%)
（備考）令和 8 年 3 月卒業生対象 ※令和 4 年度 1 年生入学生					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
・教務委員会、教授会の議を経て学年暦を作成し、シラバスを教務委員会でチェックし大学ホームページや Web システムに公開している。
・例年 4 月初めのガイダンスにて学年暦・時間割を配布、同時に Web にて授業科目のシラバス等の閲覧及び履修登録が出来るようにしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）				
【経営学部】				
・経営学部経営学科に 4 年以上在籍し、卒業に必要な単位 124 単位以上を修得した場合に教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。				
【看護学部】				
・（2021 以前の入学者）				
看護学部看護学科に 4 年以上在籍し、卒業に必要な単位 124 単位以上（保健師課程選択者は 133 単位以上）を修得した場合に教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。				
・（2022 以降の入学者）				
看護学部看護学科に 4 年以上在籍し、卒業に必要な単位 125 単位以上（保健師課程選択者は 135 単位以上）を修得した場合に教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経営学部	経営学科	124 単位	有 無	45 単位
看護学部	看護学科	125 単位	有 無	45 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページの以下のページ内の「校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報」の項に公表
<https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/outline/disclosure/educational-info/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
経営学部	経営学科	660,000 円	200,000 円	520,000 円	令和 6 年度以降の入学生適用
経営学部	経営学科	500,000 円	200,000 円	600,000 円	令和 5 年度以前の入学生適用
看護学部	看護学科	900,000 円	200,000 円	640,000 円	令和 6 年度以降の入学生適用
看護学部	看護学科	900,000 円	200,000 円	600,000 円	令和 5 年度以前の入学生適用

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) - 入学前に日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者となっている者については、手続きすることにより、採用が決定するまでの間、前期分の授業料等の徴収を猶予している。 - 本学独自の奨学金制度として学業成績による授業料減免制度がある。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) - 経営学部をはじめ全学的支援体制として、事務局 キャリア支援部を設置している。同部では各学部の就職等進路に関する多岐の情報を収集し、学生の豊かで幸せな人生を追求するため、将来及び就職に向けた支援企画、面接指導、個別相談等について専門的な対応を行っている。なお、教学組織である全学キャリア進路委員会及び同会経営部会と相互に連携を行いながら細やかなサポートを行っている。 - 看護学部では学生一人ひとりが個性や適性に応じて自らが選択でき、納得のできる進路が得られるように、全学キャリア進路委員会 看護部会の委員や各学年の担当アドバイザー教員を中心に全学部的なバックアップ体制をとっている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) - 保健室の機能も兼ねた学生相談室を開設しており、瑞浪キャンパスでは養護教諭の資格と経験を有している専門の相談員が常勤している（中津川キャンパスではリモートで対応）。また、公認心理師の資格を有している専任教員が、相談室を兼務しており、相談員への指導やより専門的なカウンセリングが必要な学生に対し、カウンセリングを行っている。 - 学生の健康診断は、毎年 4 月に実施し健康維持増進の啓発に努めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学として研究紀要を発行しており、学術機関リポジトリ構築連携支援事業に加盟し公表している。

https://chukyogakuin.repo.nii.ac.jp/?page=1&size=20&sort=custom_sort

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F121310106016
学校名（〇〇大学 等）	中京学院大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人中京学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		106人（ 61 ）人	105人（ 60 ）人	106人（ 61 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	32人	31人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅱ区分	14人	15人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	18人	20人	
	区分外（多子世帯）	34人	34人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				106人（ 61 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	一人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	一人	人	人
G P A等が下位4分の1	23人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	27人	人	人
計	52人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。